

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆ 2010年4月17日(土)東方学館本館会議室において、2010年度第1回大会委員会が開かれた。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

1. 2010年度春季大会(早稲田大学)の進捗状況
開催校の早稲田大学小林ミナ氏より準備状況や実行委員会の体制などについて報告を受けた。事務局より広報関係、来賓への対応、その他について報告を受けた。また、司会枠や当日の大会委員スケジュール、司会者マニュアル、などについて確認した。また、昼休み中の説明会の担当委員を決めた。
2. 2010年度秋季大会以降の企画・運営について
2010年度秋季大会(神戸大学)のタイムテーブルについて検討した。また、2011年度春季大会の日程を確認した。2011年度秋季大会については、コンベンションセンター(例:前橋, 米子)での開催可能性について検討した。最終決定は6月の委員会で行う。
3. 大会への応募規定の確認、検討
 - 1) 応募時の会員要件の徹底(4月25日発行の『日本語教育』145号で通知済み)
 - 2) 「学会誌」と「大会」の重複応募への対応
 - 3) 発表の各カテゴリーのねらいの明文化。(これについては結論は出ず、継続審議とした)
4. 査読の方法について
現状の評価基準を踏襲することを確認した。また、不採用の場合のコメントの作成手順について若干の修正を決めた。
5. その他
2010年度以降の会議の開催について、経費削減の点から従来のスケジュールを一部変更する可能性があることを了解した。

◆ 5月22日・23日両日、早稲田大学との共催で、2010年度日本語教育学会春季大会が同大学早稲田キャンパスで開かれた。今回は、受け付けた参加者が1,217名、発表者・招待者・関係者が122名で、総計1,339名の参加者があった。

1. 1日目の開会式では、文部科学省の中川正春副大臣が挨拶を行った。開会式に続いて表彰式が行われ、林大記念論文賞に該当論文の筆者庵功雄氏、奨励賞に山内博之氏、学会賞に縫部義憲氏が選ばれ、それぞれ賞状・賞品が授与された。受賞者からは一人ずつスピーチがあった。

2. その後、三つの会場で6件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。
3. 懇親会は、同じキャンパスの大隈ガーデンハウスで行われた。東京都内での開催であることもあって、一般参加者数170名と盛況であった。
4. 2日目には、五つの会場で36件の口頭発表、一つの会場で1件のパネルディスカッション、三つの会場で20件のポスター発表、三つの会場で9件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。過去最高の発表数となり、どの分科会も盛況であった。なお、12時40分から30分間、(独)国際交流基金および(財)日本国際教育支援協会の企画で「新しい日本語試験の改定内容紹介」の説明会が催された。

◆ 5月23日、早稲田大学早稲田キャンパス14号館510教室において2010年度第2回大会委員会が開かれた。主な課題と審議の様子は、以下のとおりである。

1. 2010年度秋季大会の企画・運営について
開催校の神戸大学實平雅夫氏より、準備状況について報告を受けた。
2. 今大会実施状況中間報告
主な検討事項は以下の通りである。
 - 1) パネルセッションの開始時間の変更
開会式が若干時間をオーバーしたが、その際にパネルセッション会場への時間変更の連絡が不徹底だった。今後は、時間変更が生じた場合の連絡の体制を考えておく必要がある。
 - 2) 配布物の問題
配布物の許可を申請せずに科研報告書を配布した会場があり、終了後に希望者が集まったため、次の発表の準備時間が短くなってしまった。冊子も含め配布物については事前に申請が必要であることを徹底する必要がある。
 - 3) デモンストレーションの発表形態
一部のデモンストレーションで、ポスター発表や口頭発表を混ぜたような発表になっているところがあった。ポスター発表、デモンストレーションの違いをそもそも区別すべきかどうかも含めて、今後、発表形態について検討する必要がある。
 - 4) 懇親会
今回、懇親会場の入口に設けたクロークでは、120件の利用があり好評であった。
3. 2011年度秋季大会の会場選定について
経費の節約及び会場校の負担の軽減から、米子市コンベンションセンターを利用する方向で引き続き調整を進めることを確認した。

◆ 第3回大会委員会

6月26日(土) 東京大学本郷キャンパス国際本部日本語教育センター会議室で2010年度第3回大会委員会が行われた。主な議題と審議の様子は、以下のとおりである。

1. 2010年度春季大会の反省
来場者に対するアンケート調査の集計結果をもとに改善案が議論された。
 - 1) 「進行スケジュール」について
口頭発表とポスター発表の発表時間をずらす工夫を今後行うことを確認した。
 - 2) アンケートの項目の修正
アンケートに「発表内容」についての設問を加えることを決めた。参加者の発表内容への関心を喚起するために「大会発表賞」を新設する意見が出た。次回以降の委員会で検討することになった。
 - 3) 「保育室」についての要望が出ていたが、今後の対処策について委員長・副委員長で検討することになった。
2. 2010年度秋季大会(神戸大学)の準備状況
事務局から、使用教室、宿泊施設などの準備状況について報告があった。
3. 2010年度秋季大会特別企画パネルセッションの承認と時間枠の決定
「一般のパネルセッションとは別に、学会の積極的活動としてWGとしての特別企画パネルを行う」という既定方針に基づき、特別企画パネルセッションの応募2件の申請について承認した。また、常任理事会・WGからの要請により、これらの特別企画パネルについては、会員以外の一般の参加者の特別参加枠を設けることを決めた。参加枠は100人までに限定し、事前申込・事前入金で1,000円を払って、これら2つの特別企画パネルセッションだけに参加できるものとする。参加者には該当のパネルセッションの抜き刷り資料を配布する。
4. 2010年秋季大会発表者の選考
今回も多数の応募があり、口頭発表30件、ポスター発表16件を、パネルセッション6件(特別企画パネル以外)、デモンストレーション5件を採択した。これに伴い、結果通知時の不採択コメントの分担、プログラムの会場割の担当者などを決めた。
5. 2011年度春季大会以降の企画・運営について
2011年度春季大会について、委員長および事務局から、開催校(東京国際大学)への視察について報告を行った。
2011年度秋季大会については米子市コンベンションセンターで開催すること、それに伴い鳥取大学の御館先生他の先生方で実行委員会を組織・運営していただくことを確認した。また、秋季大会でのイベントの企画のためにWG(松

岡副委員長ほか委員3名)を設け検討を行うことを決めた。

6. その他

1) 発表応募規定の改定案

委員長から改訂案が提案され、承認された。内容の改訂点は「発表形態の違いを冒頭に表で明確に示したこと」「パネルセッションのディスカッションの時間の確保を加えたこと」の2点である。

2) 発表時の資料配布可否の基準について

事前提出された資料について、「商業的でないか」「予稿集と重なっていないか」の2点についてチェックし判断するという方針を了承した。

3) 発表形態検討WGの設置

「ポスター発表」と「デモンストレーション」の発表形態の検討のためのWG(宮副委員長ほか2名)を設置した。WGでは来年1月の委員会までに、発表形態の見直しについての提案をまとめる予定である。

4) 発表要旨のweb掲載について

従来学会誌に掲載していた発表要旨を2011年度以降は掲載しない。そこで参加者に発表内容に対して一層の関心を持ってもらうためにも、大会前に発表要旨をweb掲載することを決めた。そのために、応募時の提出書類として新たに「(C) ホームページ公開用発表要旨」を加え、採用となったものについてはその書類を委員がチェックしてweb掲載することにした。

7. 次回委員会について

秋季大会2日目の10月10日(日)、神戸大学において2010年度第4回委員会を開催する。

(二通 信子)

● 学 会 誌 委 員 会

7月3日(土) 14:00~17:00 早稲田大学にて委員会を開催した(出席19名、事務局1名、欠席3名)。

・報告事項:

1. 特集号進捗状況(146号, 148号, 150号)
2. リニューアルWG
3. 田尻英三委員の後任に池上摩希子氏が9月より着任。

・審議事項:

1. コラム「海外の学会から」に掲載する学会を承認した。
2. 147号国際研究大会報告について迫田氏(国際連携担当理事)に執筆計画を依頼することを承認した。
3. 147号投稿論文審査(投稿数57本(研究論文24, 調査報告16, 実践報告8, 研究ノート9)した結果、採用0本、条件採用6本(研

究論文1, 調査報告3, 実践報告1, 研究ノート1), 再投稿22本(研究論文10, 調査報告3, 実践報告4, 研究ノート5)不採用29本となった。

4. 来年度以降の委員会運営体制の見直しについて。科研費補助がなくなったので、経費大幅節減のため以下を討議した。
 - a. 将来的に委員を10名にする。
 - b. 委員の仕事は編集業務(査読とりまとめ案チェック等も含む)とする。
 - c. 査読は、主査30人は主として委員経験者の協力者(任期つき)に務めてもらい、副査は従来通りの方で査読協力者(100名程度)に務めてもらう。
 - d. 上記案を基本として具体的な実施方法についてWGで検討することとした。
- ・今後の委員会予定: 11月6日, 3月5日, 6月25日。

(廣瀬 正宜)

● 研究集会委員会

1. 研究集会報告

1. 2010年度第1回研究集会(中部地区)

日時: 2010年6月5日(土) 10:00~17:00
会場: 愛知淑徳大学長久手キャンパス
参加者: 202名(会員126名, 一般76名)
内容: 研究発表30件, パネルセッション1件:
題目「とよた日本語学習支援システム構築プロジェクトの成果と今後の課題」

2010年度日本語教育学会第1回研究集会が、6月5日(土)に愛知淑徳大学で開催された。今年度は研究発表とパネルセッションが企画された。今回の研究発表は県外・海外からの発表もあり、発表件数が昨年より2倍近く増え、大盛況に終わった。内容は、談話、意味・文法、音声、教室活動、教材開発、習得など多岐にわたり、各会場ともに活発な質疑応答が交わされた。

パネルセッションでは豊田市内に在住、あるいは在勤の外国人と日本人との日本語による交流を通して、相互理解の促進と双方の日本語によるコミュニケーション能力の向上を支援する「とよた日本語学習支援システムの成果と今後の課題」などについて議論された。質疑応答の時間も設けられ、多様な意見や質問が交わされた。

例年のように中部地区ならではの昼食交流会も設けられた。尾崎明人日本語教育学会会長も足を運んでくださり、和やかな雰囲気の中で有益な情報交換が行われた。

(報告者: 李 澤熊)

2. 2010年度第2回研究集会(九州・沖縄地区)
日時: 2010年6月5日(土) 13:00~17:10
会場: 佐賀大学理工学部大学院棟
参加者: 106名(会員53名, 一般53名)
内容: 研究発表8件, ポスターセッション5件,
講演: 講師 中嶋洋一氏(関西外国語大学教授)
題目「子どもたちの『知りたい!』『伝えたい!』を引き出す授業—どの生徒も英語が好きになる中嶋マジックの秘密—」

今回の研究発表は、すべて現職教師によるもので、4会場(口頭発表3会場, ポスター発表1会場)に分かれて行われた。内容は、異文化理解教育、教師養成、教育実習、古典日本語文法、留学生の生活支援、地域の日本語教室運営など多岐にわたり、各会場とも熱気溢れる発表となった。講演は、主に「どのようにして自律的学習者を育てるのか」をテーマとして行われた。その実現をめざした講師自身の実践が、具体的に数多く紹介されただけでなく、「それらがどのように影響し合い、自律的学習者の育成につながっていくのか」という、実践と理論のつながりも聴衆に明確になってくる講演であった。徹底的な聴衆参加型の講演で、あっという間に1時間半が経ち、会場にいたほとんどの参加者が「え、もう終わったの?」という気持ちになってしまっていた。中嶋マジックの実体験ができたことで、「中嶋先生の生徒さんたちがなぜみんな英語が好きになるのか」という問いへの答えを見つけることが可能になり、「中嶋先生に英語を習いたかった!」という声が聴衆の多くから聞かれた。

(報告者: 横溝 紳一郎)

3. 2010年度第3回研究集会(会員研修)

日時: 2010年6月6日(日) 10:00~16:30
会場: 佐賀大学理工学部大学院棟
参加者: 26名(会員12名, 一般14名)
内容: 会員研修
講演: 講師 中嶋洋一氏(関西外国語大学教授)
題目「ことばは「場面」の中で意味を持つ—教師ができること、しなければならないこと、してはいけないこと—」

午前中は、「『ことばの教育』をとおして、人格を育て、mind readingができるようにするためにどう考えればよいか」についての問題提起が行われ、「私たちは何をめざしてことばを教えるべきなのか」について、参加者全員で考えた。午後のワークショップは、まさに画期的なものであった。筑波大学附属中学校の蔭田守先生の授業を、ストップ・モーション式で分析していく際に、「教師の視点」「生徒の視点」「教師ピリーフの視点」という3つの視点でそれぞれ分析し、それを突き合わせることによって、授業全体の組み立てが見えてくる、という活動を数回行った。そのうちに、

授業を多元的かつメタ的に観る目が参加者の中にぐんぐん育っていった。また、分析対象となった蒔田先生の授業は、授業中の活動全てが有機的につながっている、まさに Focus on form の素晴らしい教育実践であった。アンケートは、ほとんど全員が「とてもよかった」という結果であり、研修後、「自分の授業の見直しと改善に着手し始めます」と宣言する参加者が続出した。「宝物」のような学びがいっぱいの、本当に素晴らしい一日であった。

(報告者：横溝 紳一郎)

II. 会議記録

- ◆ 2010年度第1回研究会全体委員会(5月22日)
 1. 各地区研究会についての報告と課題・提案
各地区研究会予定については、学会ホームページを参照のこと。
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/menu-syukai.htm>
 2. 研究会の学会誌発表要旨掲載について
学会誌委員会からの提案を協議の結果、研究会発表要旨については学会誌への掲載はせずに、学会ホームページ等のウェブ上での掲載が望ましいという意見が多かった。会議欠席の委員も含め、本件については引き続きメーリングリスト等で意見聴取を行い、次回の全体委員会時に決定し、委員会として学会誌委員会へ提出することとする。なお、ウェブ化するとすると、原稿チェック等、各地区委員業務負担が多少増えるが、それについては了承であることが確認された。また、研究会の発表要旨だけでなく、ウェブ上の方が検索され読まれる率が高いことから学会誌『日本語教育』自体もウェブ化した方がよいという意見が多くの委員から出された。
 3. 研究会の開催費用・参加費について
協議の結果、各地域の研究会開催には地域の日本語教育機関との連携をスムーズに行うため、開催費用5万円は不可欠であることが確認された。開催費用の使用用途は主に会場借用料であり、会場費用だけで5万円以上かかる大学もある。かつては無料借用できた大学等も有料化しており、今後もこの傾向は続くと思われる。引き続き500円～1,000円程度の参加費(資料・予稿集代)は徴収を続け、なるべく節約につとめるが、各地域の日本語教育関係者に広く参加してもらい、学会を知ってもらうためにも、参加費値上げは見送り、参加者収入が多く開催費用5万円が余った場合は残金を返金することとする。
 4. その他
研究発表と思われる内容のものが会員から活動報告として応募され、一方で研究とは言い難いものが研究発表へ応募されていることもあるが、この二つはどのような違いがあるか。また

このような応募に対し、担当者としてどのように対処すればよいか、という質問が出た。規定通り、活動報告枠は、自ら応募し業績とする研究発表と異なり、地域ボランティアの方など非会員の方の報告・発表の場を想定しており、業績とならない。また発表要旨等も学会誌などに掲載されない、この枠ができた経緯として、企画委員側が各地域の非会員(ボランティア団体等)に報告を依頼したいというところが出発点となり活動報告枠を新設した。会員から実践研究・実践報告等、研究発表と思われる内容のものが活動報告として応募された場合はまずは応募者へその旨を伝え、本人に検討していただくことを研究会委員会として確認した。

- ◆ 2010年度第1回研究会中央委員会(6月3日)
 1. 2010年度実践研究フォーラム
 - (1)ラウンドテーブル(RT)進捗状況報告
 - (2)予稿集について
 - (3)パネルセッションについて
 - (4)開会時のフォーラム趣旨説明について
 - (5)ポスターセッションについて
 - (6)会場について
 - (7)フォーラムアシスタントについて
 - (8)来年度の募集について
 2. その他
春季大会パネルセッション「実践報告とは何か」について参加した委員から意見や疑問が出た。
- ◆ 2010年度第2回研究会中央委員会(6月24日)
 1. 2010年度実践研究フォーラム
 - (1)予稿集最終原稿の確認
 - (2)パネルセッションについて
 - (3)ラウンドテーブル(RT)進捗状況報告
 - (4)ポスターセッションについて
 - (5)会場について
- ◆ 2010年度第3回研究会中央委員会(7月13日)
 1. 2010年度実践研究フォーラム
 - (1)各セッションの最終準備状況
 - ①ラウンドテーブル(RT)
 - ②パネルセッション
 - ③ポスターセッション
 - (2)当日の進行について
 - (3)完成予稿集確認
 - (4)参加者アンケート確認
 - (5)フォーラム後の反省会について
 - (6)当日の参加人数について
 - (7)WEB版実践研究フォーラムの応募要項確認

※次回会議予定

2010年度第2回研究会全体委員会

2010年10月9日(土)

● 教 師 研 修 委 員 会

I. 研修実施報告

1. 日本語教師が知っておきたい「介護の話」

一介護に携わる外国人の状況と介護現場のコミュニケーション

講師：二文字屋 修 (AHP ネットワークス), 中山紫乃(介護支援専門員), 剣持敬太(社会福祉士)
コーディネータ：神吉宇一, 嶋田和子 (教師研修委員)

開催日：2010 年 5 月 15 日(土)10:00~17:00

場所：東京国際大学 早稲田サテライト

参加者：93 名

2. 日本語教師のための統計学入門

一日本語教育実践の分析のための統計学一

講師：黒沢学 (東京電機大学)

コーディネータ：池田玲子, 齋藤ひろみ (教師研修委員)

開催日：2010 年 7 月 4 日 (日) 10:00~17:00

場所：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館

参加者：75 名

3. 夏季集中研修「学ぶこと」「教えること」を振り返る一多様化する社会の中で一 ワークショップ①

「日本語教師としての「衣」をふりかえてみよう一異文化コミュニケーションの観点から一

講師：徳井厚子 (信州大学)

ワークショップ②

「インターネットを取り入れた学習環境のデザイン」

講師：リチャード・ハリソン (神戸大学)

コーディネータ：根津誠・古川嘉子・齋藤伸子・神吉宇一 (教師研修委員)

開催日：2010 年 8 月 7 日(土)・8 日(日)2 日間

場所：(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 東京研修センター

参加者：53 名

II. 2010 年度後半の研修予定

1. 日本語教師が知っておきたい「日本在住外国人の社会的状況と法制度」

開催日：2010 年 9 月 11 日(土)13:00~17:00

場所：東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館

2. 専門日本語教育ワークショップ「介護」(仮称)

開催日：2010 年 11 月 13 日(土)

場所：東京

3. カリキュラム評価 (仮称)

開催日：2011 年 1 月 15 日(土)予定

場所：東京

4. 教室活動のデザインIV

開催日：2011 年 2 月 12 日(土)

場所：東京

5. 専門日本語教育ワークショップ「ビジネス」(仮称)

開催日：2011 年 3 月 5 日(土)予定

場所：政策研究大学院大学 予定

◆「日本語教師研修コース」についての詳細は日本語教育学会 Website の教師研修ページをご覧ください。詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載していきます。

<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

III. 委員会での討議事項

1. 2010 年度第 1 回教師研修委員会 (5 月 8 日)

(1)2009 年度研修の報告

・教室活動のデザインIII (2 月 13 日)

・日本語アトリエ NKG (3 月 26 日)

・オンライン IT 講座 (基礎編・活用編)

(2)2010 年度前半の研修計画

・日本語教師が知っておきたい「介護の話」(5 月 15 日)

・日本語教師のための統計学入門(7 月 4 日)

・夏季集中研修 (8 月 7 日・8 日)

・日本語教師が知っておきたい法律 (仮称)

(3)今後のオンライン研修について

(4)秋季大会の理事ワークショップに関する報告

(5)看護・介護WGに関する報告

(6)統計書籍に関する報告

(7)その他

・次期委員候補者について

・東京都助成金について

2. 2010 年度第 2 回教師研修委員会 (7 月 10 日)

(1)2009・2010 年度研修の報告

・オンライン研修最終報告書の確認

・日本語教師が知っておきたい「介護の話」(5 月 15 日)

・日本語教師のための統計学入門(7 月 4 日)

(2)夏季集中研修について

・ワークショップ応募状況

・当日の進行について

・懇親会について

・その他 (研修パンフレット, 講師宿泊, 委員参加, アンケート確認等)

(3)2010 年度後半の研修計画

・日本語教師が知っておきたい「日本在住外国人の社会的状況と法制度」(9 月 11 日)

・専門日本語教育ワークショップ「介護」(11 月 13 日)

・カリキュラム評価(2011 年 1 月 15 日予定)

・教室活動のデザインIV

(2011 年 2 月 12 日)

・専門日本語教育ワークショップ「ビジネス」
(2011年3月5日予定)

※次回会議予定

2010年度第3回教師研修委員会

2010年10月2日(土)9:30~12:30

(嶋田 和子)

● 試験分析委員会

第1回試験分析委員会 2010年4月24日(土)

1. 『平成21年度(2009年7月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(文字・語彙、読解・文法、聴解、第2章)について話し合われた。
2. 分析結果のデータの修正について説明がなされた。

第2回試験分析委員会 2010年5月15日(土)

1. 『平成21年度(2009年7月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(聴解、第2章、文字・語彙、読解・文法)について話し合われた。

第3回試験分析委員会 2010年6月19日(木)

1. 『平成21年度(2009年7月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(文法、第2章、聴解)について話し合われた。
2. 2009年度分析報告書の構成について話し合われた。
3. 2009年度第2回実施試験の分析担当者を決定した。
4. 2008年度報告書の構成について確認した。
(野口 裕之)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2010(平成22)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757
- 現金書留

○クレジット(海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください)。

銀行の支店の統合により、「みずほ銀行」への会費振込先が上記のとおり変更になりました。ご注意ください。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」の運用を開始いたしました。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)をご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年会費>

- 普通会員 10,000円(年額)
- 賛助会員 一口50,000円以上(年額)

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552
E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp